

講義名	中国語 B			授業形態	
担当教員	蘭 梅	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければよし」と言われます。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取り、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真正にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

到達目標

1. 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につけます。
2. 簡単な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになります。
3. 基本的な文の意味を理解でき、書くことができるようになります。

提出課題

毎回の授業では、学習内容の理解状況を確認するため、トレーニング用のプリントの提出をもらい、次回にフィードバックを行います。また、毎週課題のプリントも配布します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出した課題については、解説を行った後、受講者に自身の結果について確認させます。最後に、受講者に共通する問題点について、重点的に復習をします。

評価の基準

本講義の評価基準は毎回の講義の受講態度と提出物、小テスト及び中間テストと期末試験の成績により総合的に評価をすることを基準とします。
 具体的な割合：
 ・平常点（授業中の受講態度、課題の提出、小テスト）30%
 ・中間テスト30%
 ・期末テスト40%
 また、5回以上の欠席の場合は評価の対象外となります。

履修にあたっての注意・助言他

外国語の授業は実践的なものであるため活発な取り組みを期待します。授業中の積極的態度は大いに評価します。教科書を持って来ないことや、始終スマホを操作していることなどのような行爲は大きなマイナスポイントとなります。

教科書

.発音重視！中国語初級マスター22.	阿部慎太郎・紅粉芳恵・蘭梅	金星堂	2500		
--------------------	---------------	-----	------	--	--

参考図書

.なし.					

その他

必要に応じて配布します。

授業計画

1. 発音編1 声調・単母音・子音・数字0-99
 2. 発音編2 複母音・鼻母音・軽声・年月日
 3. 第1課 自己紹介をする
 4. 第2課 行き先を聞く
 5. 第3課 雑談をする
 6. 第4課 家族構成を聞く
 7. 第5課 スケジュールを聞く
 8. 前半総復習および中間試験
 9. 第6課 待ち合わせをする
 10. 第7課 構内食を頼む
 11. 第8課 SNSで連絡を取る
 12. 第9課 遊楽に入る
 13. 第10課 待ち時間を伝える
 14. 第11課 趣味の話をする
 15. 総復習
- 授業の進度はクラスの状態に合わせて適宜調整します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 授業外の課題は以下の通り：
 1. 毎回の授業の後に、配布したトレーニング問題を完成する
 2. テキストの本文の発音を聞き、音読の練習をする
 3. 新しい内容の文法の確認をし、新しい単語を覚える
- 以上の勉強をするには、毎日40分程度の学習時間を確保する必要があります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

本講義では基本的にICT活用をして授業を進めていく。文法説明や課題の答え合わせなどについてはすべてBigpadで行い、Quizlet、KahootもBigpadを利用します。

実務経験の有無及び活用

備考
